

「まちの保健室」事業報告書目次



	1 会長あいさつ	1
	2 「まちの保健室」委員会 活動報告	2
	3 支部活動報告	
	阪神南支部	3
	阪神北支部	5
	神戸東部支部	7
	神戸中部支部	9
	神戸西部支部.....	11
	東播支部	13
	北播支部	15
	西播支部	17
	但馬支部	19
	4 兵庫県看護協会 事務局活動	21
	5 「まちの保健室」委員会 研修会報告.....	22
	6 「まちの保健室」事業 実績報告	25
	7 表彰	31
	8 委員・コーディネーター紹介.....	32
	9 編集後記	33



1

会長あいさつ



未来に向けた「まちの保健室」

兵庫県看護協会 会長 丸山 美津子

2025年は阪神淡路大震災から30年という節目の年でした。頻発する地震、豪雨、火災等々の災害に加え、熊による被害が甚大な年で、改めて災害対策としての日頃の備えを見直す機会となりました。

「まちの保健室」の活動は、阪神淡路大震災からの復興支援のために2001年から始まりました。20年余りの活動は、その時々々の社会情勢や医療環境に合わせ、進化・深化してきました。今では様々な団体や他職種と協働し実施できるようになりました。多くのボランティアアナーズの活動に改めて感謝申し上げます。

2040年に向けて、日本看護協会は「看護の将来ビジョン2040～いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護」として新たなビジョンを策定し公表しました。1. その人らしさを尊重する生涯を通じた支援、2. 専門職としての自律した判断と実践、3. キーパーソンとしての多職種との協働の3点を目標として、看護の提供体制の再構築、変革を目指していきます。また、兵庫県でも「地域共生社会」を目指し、様々な取り組みが計画されています。住み慣れた地域での健康な生活を支援するために私たちに何ができるか、アクティブな活動へと発展させていきたいと思えます。

昨年開催された大阪・関西万博で「みらいのみんなの保健室」が出展されていたのをご存じでしょうか。さまざまな年齢層の人々に安心できる居場所の提供、独居高齢者や子育てに悩む親たちの相談場所、外出困難な人でも働ける共生社会創出、遺伝子解析によるヘルスケアなど健康増進活動を推進するブースだったようで、まさに私たちが取り組んでいる「まちの保健室」にテクノロジーをプラスさせた「未来の保健室」を具現化したものと思われれます。「まちの保健室」活動が地域に溶け込み、病院や行政とのつなぎ役・調整役を、これまで以上に果たしていき、何より災害・減災対策を通して、阪神淡路大震災の経験を風化させることなく、災害に強い自助互助共助機能を強化するコミュニティづくりのお手伝いをしていきたいと思えます。「まちの保健室」の周りに人が集まり、何気ない会話と笑顔に包まれる空間・時間が提供できるように願っています。

皆さんと一緒に兵庫県民として、看護職として、「つながり・支え合いのある地域共生社会ひょうご～誰も取り残されない地域づくり～」に貢献していければ幸いです。

地域共生社会

制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域とともに創っていく社会





2

「まちの保健室」委員会 活動報告

開催回数：6回

委員名	委員長 数原 法子 副委員長 小林さおり 委員 福田 和美・上山 美紀・山田 愛・藤井 秀子・小西みゆき・児嶋 朱美・藤原 真希・木村 昌子・西原 沙織・大迫しのぶ・勝田 玲子 オブザーバー 松岡 千代(副会長)	
活動目標	活動内容	活動評価
<p>1 県民の視点に立ち、日常に基づいた「まちの保健室」活動を継続する</p>	<p>① 住民の日常に基づいた「まちの保健室」活動とするために、計測機器による活動から看護相談を主とした活動に移行した。</p> <p>② 看護相談を主とした活動の支援のため、まちの保健室研修会を企画し、実施した。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>テーマ：「看護職ならではの看護相談一相談対応力を発揮するためにー」 講師：宮脇 郁子 氏(神戸大学大学院保健学研究科 看護学領域 教授) 開催日：令和8年1月24日 対象者：まちの保健室拠点リーダー・ボランティア・看護相談業務に係る看護職ほか 参加者：会場19名・オンライン24名 計43名</p> </div>	<p>看護職本来の専門性を活かした看護相談を主とした活動は、住民の生活の寄り添った身近な内容の対応となっている。各支部で地域特性に合わせたリーフレットを注文できる体制整備の協議や看護相談力を高めるテーマの研修は、ボランティアの活動を支援することに繋がった。</p>
<p>2 地域課題の多様化に伴い、支部ごとに特徴的な活動を創出し、受診勧奨・健康寿命の延伸に貢献する</p>	<p>③ 「まちの保健室」ボランティア登録および活動費支払いシステムの確立に向け各支部の現状や課題を共有し、より実態に即した実効性の高いシステムの構築につなげた。</p> <p>各支部が地域課題の多様化に応じたリーフレットを選択・注文できる体制整備するにあたり、子育て支援、介護相談、認知症相談など、地域住民が抱える多様な健康相談ニーズを共有し、協議した。</p>	<p>「まちの保健室」におけるボランティア登録および活動費支払いシステムの構築にあたっては、各支部の現状や課題を協議することで、実態に沿った仕組みとなるよう調整が行えた。</p> <p>地域住民の多様なニーズに応えるために、各支部の地域特性に沿ったリーフレットを選択することで、より住民に寄り添った看護相談の一助となる仕組みを整えることができた。一律の資料ではなく、各地域の状況に合わせた情報提供が可能となり、受診勧奨や健康寿命延伸により実効的に寄与する取り組みとなった。</p>
<p>3 社会状況に応じた、新たな健康相談等の方法を模索し、活動につなげる</p>	<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>災害支援ナース研修・交流会に参加 開催日：令和7年12月16日</p> </div> <p>「まちの保健室」活動としてまちの減災・防災についての知識を深め、活動をするために、地域の減災をテーマとして開催した「災害支援ナース研修・交流会」の参加を呼びかけ、まちの保健室委員7名、支部委員5名が参加した。</p>	<p>地域のまちの減災・防災を「まちの保健室」の活動に取り入れていけるよう、災害支援ナース・減災ナースと連携を強めるため、災害支援ナース研修会の周知を行い、参加を促すことができた。これにより、災害支援ナースがまちの保健室ボランティアとして登録が促され、防災・減災を取り入れた「まちの保健室」活動に繋げていく第一歩となった。</p>
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「看護職ならではの看護相談」を強化する研修会の企画は継続 ・まちの減災、防災の活動を取り入れられるよう、災害支援ナース・減災ナースとの連携が継続的に持てる体制の構築 ・まちの保健室ボランティア活動の活動費入力システムのスムーズな運営 	



阪神南支部では、地域のベーカリーの協力を得て、店先という日常の場を活用させていただき、「まちの保健室」を開催しました。現在、活動拠点はまだ限られていますが、買い物の途中などに気軽に立ち寄り、立ち話をするような感覚で利用できる地域の「ほっとできる場所」を増やしていくことを目指した取り組みです。

本活動は、病院への受診までは考えていない方にとっても、日常の延長線上で体や心のことを気軽に相談できる場となることを目指しています。通りがかりに足を止めてくださる方もおられ、自然な会話が生まれるなど、身近な場で実施することの意義が感じられました。

今回は、動物介在活動AAA:Animal Assisted Activityの一環として犬の参加も試みました。犬とのふれあいが場の雰囲気を和らげ、参加者同士やスタッフとの間で声をかけ合うきっかけとなり、健康や日常生活に関する相談へとつながる場面が見られました。また、90代の参加者が大学生に自身の経験を語り、学生が熱心に耳を傾ける姿が見られるなど、世代を越えた対話が自然に生まれていました。

このことから、「まちの保健室」が健康相談の場にとどまらず、人と人とがつながる、地域に開かれた交流の場としての可能性もうかがえました。今回の取り組みで得られた手応えを大切にしながら、今後も開催場所や関わりの方を工夫し、地域の実情に応じた形で「まちの保健室」の活動を継続・発展させ、地域に根づく取り組みとして広げていきたいと考えています。



兵庫県立尼崎総合医療センターと 兵庫県立大学看護学部周産期ケア 研究センターが協働開設

るんるんルーム

「るんるんルーム」は、平成27年に兵庫県立尼崎総合医療センターと兵庫県立大学看護学部周産期ケア研究センターが協働して開設した子育てまちの保健室です。学校の保健室のように、心や身体のさまざまな



な気がかりや不安を気軽に相談できる場として運営しており、妊娠中の方や乳幼児を育てるご家庭が集い、ほっと交流できるひろばとなっています。令和5年4月から令和6年6月までは感染症重症化防止の観点から公共施設で開催していましたが、感染対策の変更に伴い、令和6年7月より尼崎総合医療センター講堂で開催しています。月2回開催し、1回は専門職による口腔ケアやスキンケアなどのミニレクチャー、もう1回は参加者同士の交流や看護職への相談を中心とした「親子で楽しくおもちゃで遊ぼう」の会としています。院内開催により、産婦人科医師や小児科医師、管理栄養士、歯科衛生士、小児看護専門看護師など多職種の協力を得て、内容の充実を図っています。令和7年4月から12月までに342名が参加しました。参加者の増加に伴

い、月齢や年齢、発達差による事故防止のため会場内のエリア分けや遊び方の工夫を行い、「親子で楽しくおもちゃで遊ぼう」の会では、試験的に月齢・年齢ごとの参加枠も設けています。現在は予約制で、定員に達する状況が続いており、安全確保のため看護職の十分な配置が必要であることから定員拡大には至っていません。今後は看護職ボランティアの確保が課題です。



武庫川女子大学看護学部 「まちの保健室」・「健康相談ひろば」

武庫川女子大学看護学部は、令和7年に開設10周年を迎えました。地域の皆さまの健康の保持増進のために何かお役に立ちたいと考え、地域貢献活動、教育活動の一環として平成29年度より「まちの保健室」をらぼーと甲子園で、令和元年度より本学主催の「健康相談ひろば」を鳴尾・武庫川女子大前駅高架下の武庫女ステーションキャンパス等で開催し、活動を継続しています。

令和7年度は、出前隊として「まちの保健室」を2回、「健康相談ひろば」として乳幼児の計測と育児相談を2回、健康相談を2回、計6回開催しました。

「まちの保健室」では健康指標の測定や健康相談、西宮市薬剤師会によるお薬相談を行っています。参加者は90名ほどであり、「いつも楽しみにしています」「また参加します」といった声をいただき、リピーターの方にも多くご参加いただいております。また、看護学部の学生ボランティアが特製ポロシャツを着てスタッフとして加わり、にぎやかな開催となっています。

「健康相談ひろば」では、大学院修士課程の保健師養成のコースの学生が、「子どもの熱中症予防のお話」をさせていただきました。

「まちの保健室」「健康相談ひろば」は、多様な世代の方々にもご参加いただき、健康づくりの輪が広がるとともに、学生にとっては地域の声に直接触れ、学びを深める貴重な機会となっています。次年度以降も、引き続き地域の方に気軽に参加いただけるような場となるよう活動してまいりたいと思います。



看護学部の学生ボランティアもスタッフとして活動しています!!



支部活動報告

阪神北支部

阪神北支部は、宝塚地区、伊丹地区、川西地区、三田・丹波・丹波篠山地区の4つの地区に分けて活動を行っております。各地区の活動をご紹介します。



宝塚地区

宝塚地区では、3拠点11回開催しました。血圧測定や体組成計での測定は、地域の方からニーズが高く、リピーターの方は前回値との比較し健康管理に役立てていたり、リーフレットを使用しながら、季節性の流行性感染症の予防策を説明をしたり、高齢者に多い高血圧や高コレステロールなど、生活習慣病の予防なども個別にリーフレットを渡し、注意点や生活上の工夫などをお伝えしています。

伊丹地区

伊丹地区では、今年度、拠点2ヶ所で13回、出前隊で7回、来場者は225名、ボランティア数は73名でした。年2回出前隊で活動している「心にぎやかサロン」は、これまでの健康相談で5名の方が内科を受診して内服薬で加療されています。手話通訳をつけながら行う健康相談は、「いろいろ聴けて良かった」「また、お願いします」と笑顔が印象的でした。個別相談の後、体操を行い、インフルエンザの予防、内科受診のタイミングなど手話通訳付きで講話しました。皆さん、熱心に聞いてくださり、大きな拍手を頂きました。来所者さんも看護師も笑顔溢れる会になりました。これからも住民の皆さんの相談場所になれるよう努めて参ります。



川西地区

川西地区では、牧の台自治会館拠点で年4回の活動を行っています。健康意識が高く活発な方々20～30名参加されています。毎回、専門職を招き講話を取り入れ、言語聴覚士による「オーラルフレイル」、理学療法士による「健康体操」、感染管理認定看護師による感染予防対策など開催し、皆さん真剣に受講されていました。また、レクレーションも行い、楽しくにぎやかな時を過ごしています。和やかな雰囲気の中で、健康相談を行うことが出来、不安や悩みなど吐露できる場になっています。



三田・丹波・丹波篠山地区

三田・丹波・丹波篠山地区では、今年度、丹波市において「希望の家」「きらめきワーク」の2拠点に加え、来訪者の減少を受けて新たに「丹波ゆめタウン」へ拠点を移し、計3拠点で活動を実施しました。また、「JAまつり」や「丹波市防災フェア」には出前隊として参加しました。「ゆめタウン」への拠点移動により来訪者が増加し、施設側から防災フェアへの参加提案をいただくなど、新たな連携の広がりも見られています。拠点および出前隊での活動では、高齢者だけでなく、子ども連れの若年層から「血圧を測ったことがない」という声も多く寄せられ、血圧測定をきっかけとした健康相談につなげることができました。



丹波篠山市では拠点活動は行わず、「丹波篠山市つながろうフェスタ」に出前隊として参加しました。体組成計による下肢筋力測定への関心は高く、多くの来訪者が希望されました。また、他の出展者による認知症検査の影響もあり、認知症や介護に関する相談が多く寄せられ、地域の不安やニーズの高さがうかがえました。

超高齢化・過疎化が進む地域において、これらの活動は住民の健康意識の向上や早期相談につながる重要な取り組みであり、継続が求められます。しかし、ボランティア参加者の減少により、実施は年1回にとどまっているのが現状です。

三田市では、地域の特性から新たな拠点の開設が難しく、さらにボランティア参加者もほとんど得られなかったため、今年度の実施には至りませんでした。

今後も、できる限り活動を継続できるよう取り組んでいくとともに、ボランティア参加状況も踏まえながら、地域のニーズに応じた柔軟な活動展開を検討していきます。

阪神北支部まちの保健室研修会

利用者数やボランティア登録者が減少していることもあり、別の役割も担えないかと委員会で話し合う中で、減災ナースの活動を知りました。いつくるかわからない災害に備えるため、健康相談と一緒に減災活動ができればいいのではないかと、活動する委員やボランティアがまず、減災ナースの活動内容を知って、地域住民が自然災害への備えとして、意識して準備できるような取り組みが必要と思いい、「まちの減災ナース指導者の活動を知り、大規模災害への備えとしてこれからの地域住民の自助、共助、互助について共に考える」研修会を開催しました。

ボランティア活動をしている登録者、地域での災害対策に興味のある看護師等の参加があり、災害への備えの具体的な内容を学び、グループワークでは近隣住民の方々との日頃からの顔の見える関係づくりが、災害時の地域での自助・共助に繋がっていくことなど活発な意見交換ができ、今後のまち保の活動を考えることができました。





支部活動報告

神戸東部支部

神戸東部支部は、「神戸市立東灘図書館」「協の浜地域福祉センター」「コミュニティプラザ」の拠点活動と「看護の日イベント」「兵庫医科大学学園祭」の出前隊活動を行いました。

今年度より、「健康相談」を中心とした活動に変更となり、委員会では、地域に根ざした活動を継続していくために、健康相談の方法やイベントの企画など活発な意見交換を行っています。拠点活動では、ボランティアの皆さんと地域住民のニーズに応えることができるように協力しながら行いました。今年度の拠点活動と出前隊活動の様子を報告します。



神戸市立東灘図書館



神戸市立東灘図書館は、偶数月の第3木曜日の10:30～12:30に2階会議室を拠点に活動しています。ここでは、健康相談と子育て支援を中心に活動を行っています。

健康相談では、40歳代から80歳代までの幅広い年齢層の方が来られています。親子で来られる方や夫婦で来られる方が、健康の維持や疾病予防など健康相談されています。その一方で、親の介護をされている方、夫や妻を介護されている方の介護相談なども増えています。フレイルチェック表の活用や折り紙、けん玉など指先を使う遊びの実施もしています。

今年度は、神戸市立東灘図書館館長と連携し、怒りの対処についての講話を実施しました。子育て支援に関しては、ご利用者が少ない状況が続いています。子育て支援に関しては、地域のニーズを把握し方法やイベントの開催などを検討していきたいと考えています。



協の浜地域福祉センター

協の浜地域福祉センターは、奇数月の第3月曜日の13:30～15:30に、HAT神戸の協の浜地域福祉センター内の談話スペースを拠点に活動しています。あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター。以下「あんしんすこやかセンター」という。）の職員と連携して実施しています。毎回、10名以上の方が参加されています。独居の方も多く、かかりつけ医がない、身体症状の不安などの健康相談がみられます。リピーターの方が多いため、継続した健康相談を行う

ことができています。しかし、参加するボランティアは交代するため、相談内容を継続する方法を検討していくことが今後の課題と感じています。昨年度から、ACPについて取り組みを行っていますが、利用者への声かけや提示方法など、委員のメンバーは委員会の中で学習しています。今後も継続して取り組みを行っていきたいと考えています。

コミュニティプラザ

コミュニティプラザは、偶数月の第2金曜日の13:30~15:30に県営住宅シルバーハイツ南本町1号棟を拠点に活動しています。

協の浜地域福祉センター同様、あんしんすこやかセンターの職員と連携して実施しています。毎回、10名前後の方が参加されています。リピーターの方が殆どですが、友達を誘って来られることもあります。

コミュニティプラザは、夫婦での参加、独居の方の参加など様々ですが、70歳以上の方が多く、高齢化が進んでいる印象があります。かかりつけ医がいない、疾病の症状変化、認知機能の低下への不安などの健康相談を行っています。リーフレットを用いた説明を行い、継続した関わりを行っています。

現在は、県営住宅に住まわれている方の利用が多いため、地域の方々に参加してもらえるように、あんしんすこやかセンターの職員と連携していきたいと考えています。



〈出前隊〉看護フェア

今年度は、兵庫県看護協会神戸東部支部、神戸中部支部、神戸西部支部の3支部合同で開催した「看護フェア」にまちの保健室出前隊で参加しました。神戸市北区にあるコアキタマチショッピングセンターで行われ、多くの方の参加がありました。他の支部のボランティアの方とも交流でき、「まちの保健室」の情報交換も行うことができました。

また、兵庫医科大学では、教員と学生で、大学の学祭においてまちの保健室出前隊を行っています。兵庫医科大学の近隣の地域住民や大学生が多く参加されました。参加者の多くは65歳未満で自身の健康についての相談を行いました。他のイベントと重なったため、今年度は、出前隊の活動が2件と少なかったです。

来年度は、開催時間の検討を行い、多くの方に参加してもらえるように考えています。神戸東部地域での出前隊の活動や他の支部との合同開催など、今後、積極的に実施できるように委員会で検討していきたいと考えています。

「のじぎくちゃん」

兵庫県看護協会のマスコットキャラクターとして、ナースのみなさんの応援をしています。





神戸中央支部は中央区、兵庫区、北区からなり、広範囲に活動を行っています。

令和7年度は拠点活動2回・出前隊活動1回行いました。その中の活動の様子をご紹介します。



三菱神戸病院



三菱神戸病院では、院内の生活習慣病診療チームと合同で、外来通院中の患者や近隣の地域住民の方を対象に10月に「腎臓病教室」を開催しました。参加者は少人数でしたが一人ひとりの生活や疾患に合わせた個別の説明・指導をすることができました。参加された方からは「40年前から糖尿病・高血圧があり腎臓も悪くなっている。今回話が聞けて大変よく分かった。透析を少しでも遅くなるように気を付けたい」「次は睡眠についてやってほしい」などの声が聞かれました。

実際に採血データを持参され興味深く自分の体について知ろうとする姿勢が見られ今後の活動への励みになりました。

今後は参加者が増えるようPRにも力を入れ、外来患者や地域住民の方々のために健康サポートができるよう活動を続けていきたいと思っております。



〈出前隊〉

神戸ハーバーランド 「かるめに健康チェキスポ」

神戸新聞社が主催する「健康フェア」に出前隊として参加し、「まちの保健室」活動としてフレイルチェックを実施しました。①握力測定②歩行速度を測定(1メートルを歩いてもらい何秒かかるか)③結果説明と健康相談を行いました。



休日ということもあり122名の沢山の方に参加していただきました。参加していただいた方たちは、運動をされている方や食事に気を付けている方たちが多く、その他にも血圧や脂質異常、寒くなる時期から増え続ける感染症についてのパンフレットを持ち帰るなど健康意識の高さを感じました。そのせいかフレイル予備軍の方は数名いましたが、フレイルに該当する方はいませんでした。

フレイルチェックはスムーズに行えることができましたが、健康相談では時間を要したため、待ち時間が長くなることもありました。

日本看護協会のキャラクター「かんごちゃん」もイベントに参加することで場が盛り上がり、活気ある会場へととなりました。

次年度も出前隊として地域に根ざした活動を継続し住民の皆さんの健康増進に努めていきたいと思えます。





神戸西部支部は、「神戸市看護大学」「井吹台セリオホール」「狩口台住宅」「まいこ会館」の4拠点と、出前隊として子育て支援から健康相談、講座、体験など様々な活動を行っています。

活動する中で、地域の方々の健康に対する意識が高いと感じるとともに、様々な不安を抱えながら生活されているのがわかります。「まちの保健室」を心待ちにしてくださる地域の方の声も聞かれ、必要性を感じております。

今後も活動を継続するとともに、変化する地域のニーズに応えられるよう、委員会メンバーで活動内容を検討していきます。

まいこ会館

まいこ会館では、民生委員・児童委員協議会の方々を中心に、年3回(3月、7月、11月)、ボランティア活動を実施しています。参加者はおおよそ20~30名で、季節により多少の増減はありますが、開催前には地域へのチラシ配布を行い、多くの方に参加していただけるように工夫しています。

以前は、健康機器を使用した活動を行っていましたが、令和7年度から健康相談を中心とした活動のあり方について検討を行いました。健康機器の測定を楽しみにされていた地域住民の声も踏まえつつ、「まちの保健室」の原点である、気軽に相談できる場づくりに立ち返り、現在は健康相談を中心とした活動へ移行しています。今後は、相談を通じて地域の健康課題を把握し、よりニーズに沿った活動内容の充実を図っていきたいと考えています。

活動内容については地域の方々と相談しながら検討しており、フィットネスやヨガのインストラクターを招いた健康体操を取り入れたプログラムも企画されています。体を動かす機会の提供に加え、住民同士が顔を合わせて交流できる場としても機能しており、会場では和やかな雰囲気の中で交流が図られています。

看護職は、血圧測定やフレイルチェックを行いながら健康相談を実施しています。参加者の中には、ひとり暮らしや老々介護をされている方も多く、30分以上じっくりと相談される方もおられます。日常生活における不安や体調の変化について丁寧な話を聴くことで、必要に応じて医療機関の受診や、あんしんすこやかセンターにつなぐ支援を行っています。短時間の関わりではありますが、「話を聞いてもらえてよかった」と安心した表情で帰られる方も多く、地域住民の安心感の向上につながる活動であると考えられます。

今後も地域の方々と共に内容を検討しながら、誰もが気軽に立ち寄れる「まちの保健室」を目指し、活動を継続していきたいと考えています。



神戸西部支部ボランティア研修会

10月に、実際の活動の時に活かせる情報の共有と新規ボランティア募集を目的に、研修会の開催を行いました。

今年度は地域住民の健康ニーズと多職種協働を視野に入れ、理学療法士に協力を依頼し、保健室活動で取り組める軽運動の講義を追加しました。参加者からは有意義であったとの意見が多く、今後も継続、また新たな講義の検討をしていきたいです。一方で、登録者以外の一般参加者が少なく、新規のボランティア登録には至りませんでした。

次年度は、より多くの方に知って頂くため、ボランティア研修の内容を早期に決定し、早からの広報に努め、効果的なボランティア募集の方法を検討していきたいです。



神戸西部支部では、さらなる活動の充実を目指して、ボランティアを募集しています。

令和7年4月からは、地域住民の皆様により質の高い相談業務を置くために、測定機器を使用しない方向での活動へ変化し、住民一人ひとりの声を大切にサポートしていきます。

あなたが日頃何気なく行っている活動も「まちの保健室」の活動ではありませんか？

空いた時間におうちの近くの拠点や出前隊での活動、参加できる日のみでも構いません。

ぜひ一緒に「まちの保健室」を盛り上げて、地域の方々の健康支援をおこなっていきしょう。お待ちしております。

ご応募
お待ちしております





東播支部では、昨年度から今年度も引き続き健康相談の場を活用し、『地域の方に防災意識を高めてもらう取り組みをしていこう!』を合言葉に来場された方へ、ハザードマップや「避難場所は把握しているか」など声掛けを行い、日頃から防災を意識するきっかけづくりを進めてきました。

今年度は、防災意識向上に取り組み「災害ポーチ」の提案、洲本「まちの子育てひろば」、「加古川ツーデーマーチ」の活動を報告します。



災害時に役立つ 「災害ポーチ」の提案

東播地区は、過去に阪神・淡路大震災の影響を受けた地域であり、災害への備えは私たちにとって身近で重要な課題です。東播支部では、個人が日常に携帯できる「災害ポーチ」を提案し、普及に向けた取り組みを行いました。

今後は、地域の特性や住民の生活スタイルを踏まえながら、その対象に応じた災害ポーチの内容の提案や活用方法についてわかりやすく発信していく予定です。災害経験がある地域だからこそできる「実践的な備え」を共有し、住民一人ひとりの防災意識向上に向けて活動を進めていきます。



防災ポーチの中身は…

<input type="checkbox"/> ティッシュ	<input type="checkbox"/> ウエットティッシュ	<input type="checkbox"/> マスク	<input type="checkbox"/> 手袋
<input type="checkbox"/> ナイロン袋	<input type="checkbox"/> 歯磨きシート	<input type="checkbox"/> 常備薬	<input type="checkbox"/> 絆創膏
<input type="checkbox"/> お薬手帳のコピー	<input type="checkbox"/> メモとペン	<input type="checkbox"/> 小銭	など

皆様も身近なものでそろえてみてください



洲本「まちの子育てひろば」

令和6年度より、拠点活動「まちの子育てひろば」を再開しました。子育てひろばでは、社会福祉協議会担当者と協働し、制作イベントや親子クッキングなど、遊び場を利用する親子と交流する中で育児相談を行っています。参加者の募集は社会福祉協議会から発行される社協だよりやInstagramで広報され、毎回10～15組の親子が参加しています。島内唯一の周産期センターである県立淡路医療センターのスタッフがボランティアメンバーとして参加しており、病院での取り組み(ファミリークラス・ぴよぴよクラス、産後ケア事業)との連携もできます。

核家族化や共働き世帯の増加に加え、淡路島では島外から移住してくる子育て世代も増えています。その一方で、身近に頼れる人や気軽に相談できる場が少なく、子育ての悩みを一人で抱え込みやすい状況も見られます。ネットやSNS、多くの情報に囲まれている一方、気軽に子育ての悩みを相談・情報交換をしたり、うれしい出来事を共有できる場として子育てひろばは有用であるといえます。悩みや不安に寄り添い相談に応じることができるよう、今後も活動を継続していきたいと思います。



〈出前隊〉加古川ツアーデー

令和7年11月8日・9日に加古川市役所前広場を拠点として、ウォーキングイベントが開催され、「まちの保健室」の出前隊も毎年活動しています。2日間で延べ143名の方に来訪いただきました。イベント2日目はあいにくの降雨で肌寒く、来訪者が少なかったのが残念でした。

「まちの保健室」のブースは市役所広場の出入口付近にあり、その前を通行する人が多く「高血圧症」「インフルエンザ」「健康寿命」などのパンフレットに興味深く見ていました。

今年度からは計測機器による測定を血圧測定と体脂肪測定にし、お一人おひとりの話をじっくり伺う相談の時間を大切にす体制としました。血圧計や体脂肪計を用いた基礎代謝や体脂肪率等の数値をみながら、来訪者や一緒に来られたご家族と共に食事や生活の工夫を考えるお手伝いをさせていただき、和やかな雰囲気でも活動できました。





コロナ禍で長期休止していた活動を、令和5年度より段階的に再開し、今年度より6拠点全てで活動を再開することができました。

6拠点全ての再開に向けて調整を行う中で、地域住民にとって利用しやすい拠点等の調整の結果4拠点を変更し、活動を続けています。

今年度は、5か所のイベントに出前隊として参加し、多くの来場者と健康相談を通じ、交流の機会となりました。



白雲谷温泉ゆぴか

毎月第3土曜日にボランティア5名で活動を行っています。温泉を楽しまれた後、血圧測定をお勧めし、お話を聞かせていただきました。

道の駅みき

毎月第2土曜日にボランティア3名で活動しています。道の駅での開催ということもあり、遠方から来所される方もおられ、「まちの保健室」の活動について知っていただく機会となっています。

新拠点 あすみる多可

令和7年4月にオープンしたばかりの「あすみる」に拠点を移し、4月から偶数月第3土曜日にボランティア3名で活動しています。

新拠点 滝野温泉ぽかぽ

今年度より拠点を移し、奇数月の第2土曜日にボランティア4名で活動を行っています。温泉施設に人気のうどん屋さんが併設された施設のため、幅広い年代の方が来所されました。



アスティアかさい

アスティアかさいの中で開催場所を変更し、奇数月第1土曜日にボランティア4名で活動を行っています。こどもの遊び場が近く、親子連れでの参加もありました。

新拠点 みらいえ西脇

コロナ禍から休止していた活動を、拠点を変更し4月から再開することができました。毎月第1土曜日に、ボランティア3人で活動しています。図書館や、こどもプラザを併設した施設で、「まちの保健室」をご存知ない方も多く、声をかけながら活動しています。



〈出前隊〉はりちゅうの日

令和7年11月16日、兵庫県立播磨中央公園で開催された“はりちゅうの日”のイベントにおいて、健康チェックや健康相談を実施しました。9名のボランティアが参加し、来場された多くの地域の方と健康について語り合い、交流を図ることができました。晴天の中、124名と多くの方に参加いただきました。

〈出前隊〉西脇いきいきふれ愛まつり

令和7年11月23日、西脇市市民交流施設オリナスホールで、『西脇いきいきふれ愛まつり』が開催され、5名のボランティアが参加し30名が来場されました。イベントでの開催のため、65歳未満の若い方が多く来られ、健康に関する心配事の相談もあり、健康意識の高さを感じ、幅広い年代層の方との交流の機会となりました。

多可町制20周年記念式典

町立20周年記念イベントに参加し、65人と多くの方が来所されました。普段来られない30代、40代の方の健康チェックなどもでき、健康に関する意識啓発につながったと思います。



多可赤十字病院創立80周年記念事業

病院スタッフがボランティアとして出前隊を開催し、35名の参加があり、まちの保健室のリーダーも来場してくださいました。

多可赤十字病院 看護の日

看護の日に合わせスーパーで出前隊を開催しました。スーパーへのお買い物帰りに立ち寄ってくださる方や、チラシを見てこられた方など、30名の来場がありました。



北播支部まちの保健室講演会

令和8年2月14日

北播磨総合医療センター 慢性心不全看護認定看護師の中川千里先生をお迎えし、『市民教育に活かす生活習慣病のサインと生活指導』をテーマにご講演いただきました。看護職として、血圧については、ガイドラインに基づく高血圧の基準や、心疾患・脳血管疾患のリスクなど、基本について改めて学ぶ機会となりました。

「まちの保健室」だけでなく、今後の看護活動、保健師活動にも活かせる講演会となりました。





現在、西播支部では「まちの保健室」活動拠点が12か所あります。今年度より拠点場所を新宮図書館から変更した「はつらつの湯」や、オープンキャンパスや学園祭と合わせて開催されている「姫路大学」、地域の方にアンケートを取りながらミニ講座やレクリエーションを工夫されている「姫路獨協大学」では多数の来所者がみられます。

一方、スーパーや図書館では施設への来所者自体が少なく、足を止めて立ち寄っていただける方も減少傾向にあります。地域の方のニーズを再確認し、様々な工夫をされている拠点の活動を共有し、活動内容の工夫や拠点場所の検討に取り組んでいきたいと考えています。

看護の日のイベント

イオンモール姫路リバーシティにて令和7年5月10日、看護フェスとして、歌う看護師 若菜健介氏や各種団体の皆様と活動しました。

体脂肪測定と血管年齢測定、健康相談、ナースに変身、災害ブース 日本看護協会「かんどちゃん」との写真撮影、健康に関するクイズ大会など、多くの方に楽しんでいただきました。



〈出前隊〉マリアフェア

姫路聖マリア病院イベント「マリアフェア」を令和7年10月26日に活動を行いました。リピーターの多いイベントですが、今年度はフレイル予防に重点をおきました。

測定ブースでは、握力測定・下肢筋力年齢測定・骨密度測定を実施しました。展示相談ブースでは管理栄養士によるフレイル予防に効果的な食事の案内、看護師により健康相談を実施し、433名の方に参加していただきました。



姫路獨協大学

大学の地域貢献活動として、年4回の「まちの保健室」を大学で行っています。今年度は3回の開催を終えて、現在50名の方に参加していただきました。

活動の内容は、フレイル予防として食事・栄養、運動、社会活動の3つの柱から日頃の生活を振り返るミニ講話を行いました。身体測定は握力測定、下腿周囲長、椅子からの立ち上がり、歩行速度などボランティアの学生が付き添い記録や計測のサポートを行っています。学生のボランティアは毎回7、8人で、地域の方達との交流を楽しみに参加をしています。健康相談は、毎回3ブースに配置し、ゆっくりと対話ができるようにしています。



今回、大学の倫理審査で承認を得て、住民の皆様にご協力をお願いしています。

コミュニティでの活動を継続するためには「楽しい」ことや「自分の得意なこと」を選択されている方が多く、身体に負担の少ない、エビデンスのある内容で、楽しく過ごしていただくことを大事に企画していく必要があると考えました。そこで簡単なタオル体操やリズム体操、口腔機能体操の「パタカラ」体操は、実際に口の動きや発声を一緒に行いエビデンスを伝えました。「普段こんなに大きな声を出すことがないわ」や「最近むせることがある」と話しながら参加をされていました。文化的な活動として絵手紙は、夏野菜を実際に目の前で見ながら「真っ赤なトマト」や「茄子」、「トウモロコシ」と好きな野菜を選んでおいしい作品を持ち帰っていただくことができました。

今後も私たちが地域の人たちと共に健康生活について考え、楽しい活動を行っていきたいと考えています。

(報告者: 姫路獨協大学 阿児馨)



〈出前隊〉 老人クラブふれあいサロン

豊岡の駅前通りにある老舗の喫茶店「ヒグラシ珈琲店」において、地域の老人クラブがふれあいサロンを開催してします。令和7年度は、このふれあいサロンで「まちの保健室出前隊」を2回開設することができました。

このサロンで、「まちの保健室」を開設することになったいきさつは、拠点「サンスト館」の利用者の方々が立ち上げられた「ふれあいサロン」だったからです。

サンスト館は、駅前通り商店街の中にあり、地域交流や子育て支援の拠点に位置づけられています。お買い物帰りやお散歩途中の方、お子様づれの方、商店街の方々などが、サンスト館に立ち寄り、「まちの保健室」を利用してくださっていました。ところがコロナ禍以降は、サンスト館の利用者が年々少なくなり、「まちの保健室」の利用者が全くない日もありました。拠点の継続を検討している中で、サンスト館の事務局の方から、老人クラブのメンバーの方が、定期的に「ふれあいサロン」として集まっておられるという情報を提供いただき、役員の方との話し合いから、「まちの保健室」の開設の運びとなりました。

1回目は、「笑い与健康」「むせ予防～ゴックン筋を鍛えましょう」をテーマに健康講話をしました。和やかな雰囲気です。「楽しかった」「笑いが健康に関係していることを知ったが、日常で笑うことが無くなっている中、集まりで笑いの機会を得る大事さが分かった」「普段むせることがあるが、話を聞きゴックン筋を意識できた。鍛えるコツをきいたので、毎日意識してとりくみたい」とうれしい感想をたくさんいただきました。



2回目は、血圧測定と健康相談をしました。健康相談では、「普段気になっている身体のことを丁寧に聞いてもらえた」「血圧測定してもらえ、ゆったりした気分で一人一人にあったアドバイスがとてもよかった」「これからも定期的に来てほしい」と、ありがたいことに1回目に続き好評のお声をいただくことができました。



まち保委員会では、このふれあいサロンにおける令和8年度の実施方法について、内容や実施回数を老人クラブの方と協議していくこととしています。

但馬支部 まちの保健室研修会

令和7年度のまちの保健室研修会は、「もしバナゲーム～人生の最後、ACPを考える」をテーマに講師にNPO法人 アンビシャスコーポレーションの岡田英之先生をお迎えし、第2回但馬支部会員会の親睦研修会として開催しました。

「もしバナゲーム」は、自分の価値観を自然に引き出してくれるツールです。看護職である私たち支援者が、まず自身の価値観に気づくことで、「まちの保健室」において進めている、機器を使用しない健康相談において、対象者との対話のきっかけづくりや価値観の共感に役立つと考えたからです。研修会当日は77名もの参加があり、会場が一杯になるほどの盛況で、ACPへの関心の高さを実感しました。

ゲームは、4人1グループとなり、人生で大切な「モノ・コト・ヒト」が書かれた36枚のカードを各メンバーに5枚ずつ配ります。「あと半年の命」を前提に、手持ちの5枚から自分にとって特に大切だと思うカードを3枚選び、なぜその3枚を選んだのか、また残りの2枚を選ばなかった理由について、グループ内で共有するものです。会場は、初対面の参加者同士でも自然と会話がはずみ、ワイワイと和やかな雰囲気で大いに盛り上がりました。

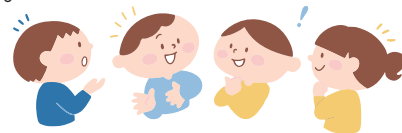
参加者からは、「ACPを難しく考えていましたが、もしバナゲームをワイワイ楽しみながら進めるうちに、自分の大切にしている価値観がはっきりして驚きました」「自分ごととして素直に



心に潜む気持ちを見つめることができました」「人の思いや考えを聞き、共感できるとてもよい時間でした」など、多くの方から好評を得ることができました。

また、「看護職の皆さんが対象者の心に寄り添えるように、私自身が日頃感じていることをお伝えしました」と、自身の体験を共有してくださった参加者もいました。

今回の研修は、機器を使わずに“対話のきっかけをつくる”だけでなく、自分自身の価値観を見つめ直す深い学びと交流につながり、大変有意義なものとなりました。





兵庫県看護協会 事務局活動

- 1) まちの保健室委員会の実施 計6回 (P2参照)
- 2) まちの保健室コーディネーター会議 (2回実施/令和7年7月16日・令和8年1月24日)
- 3) まちの保健室研修会 (P22.23参照)
計測機器を使用しない看護職ならではの看護相談を主とした活動を行うため、内容を委員会にて決定した。

テーマ 看護職ならではの看護相談—相談対応力を発揮するために—
開催日 令和8年1月24日(オンライン併用)
参加者 43名

- 4) 災害支援ナース研修・交流会にコラボ参加 (P24参照)
新たな健康相談等の方法を模索し、活動につなげるため、災害支援ナース・減災ナースと連携できるよう、まちの減災をテーマにした災害支援ナース研修会に参加した。

テーマ 平時から情報共有できるネットワークづくり
開催日 令和7年12月16日
参加者 87名(内、支部まちの保健室委員5名)
 ※まちの保健室委員会委員7名参加

- 5) 相談業務充実化を図るため、健康相談として子育て支援、介護相談、認知症相談など、地域住民の多様なニーズに応えるため、各支部が地域課題の多様化に合わせたリーフレットを注文できる体制づくりをした。

- 6) 交通費精算システムの構築
これまで、ボランティア看護職への交通費支給に関する一連の業務(交通費の計算、現金準備、手渡し、会計報告等)は、コーディネーターが対応してきた。そのため、業務負担の増大、会計処理の複雑化・整合性などが課題となっていた。
課題を解決を図るため、これまで何度も検討重ね、申込フォーム・交通費精算・口座振込先登録・登録情報の変更・継続確認と一体化としたシステムを完成することができた。(令和7年12月10日から運用開始)

- 7) 交通費精算システム構築にあたり、まちの保健室マニュアルの整備
- 8) 兵庫県看護協会会館内「まちの保健室」健康電話相談 相談件数16件
兵庫県看護協会会館の「まちの保健室」は電話健康相談を行い、件数は昨年度より減少したものの、地域住民の身近な相談窓口として役割を果たした。
相談は身体の不調や医療機関との関わり方など日常の不安が中心で、精神的な不安を抱えるリピーターには丁寧な対話で安心感と信頼関係の構築に努めた。
相談者が安心して自分の思いを話せる場であることを大切に、相談者に寄り添った支援を行った。

ボランティア募集

看護職のみならず
あなたの経験と知識を、
地域に笑顔を届けませんか?

「まちの保健室」活動は、地域住民の健康相談や
子育て支援を行い、安心できる暮らしをサポートしています

令和8年度からは、交通費精算システムを導入し、
オンライン申請&口座振込でスムーズに精算できるようになります



募集対象 保健師・助産師・看護師・准看護師 ※看護協会会員でなくてもOK!
活動内容 登録支部の拠点やイベント会場で、健康相談や子育て支援の相談対応
活動時間は約2時間程度(場所により異なります)
登録支部 原則、施設に所属されている方は、所属支部となります
個人の方は、お住まい地域の支部となります



詳しい詳細は、
本会HPを
ご参照ください



5

「まちの保健室」委員会 研修会報告

〈まちの保健室研修会〉

日時 令和8年1月24日 13:30~16:00

場所 兵庫県看護協会会館

ねらい 地域住民の健康維持、増進の支援に必要な看護相談対応力を高める

講演テーマ



1. 『まちの保健室の歴史とこれからの課題』

講師:兵庫県看護協会 専務理事 松下 清美

2. 『看護職ならではの看護相談—相談対応力を発揮するために—』

講師:神戸大学 大学院保健学研究科 看護学領域 教授 宮脇 郁子 氏

令和8年1月24日、兵庫県看護協会(以下、本会)会館およびオンラインにて、「まちの保健室」研修会を開催しました。今年度より「まちの保健室」は、計測機器を使用した支援から看護相談を主軸とした活動へ移行しており、本研修では「地域住民の健康維持・増進を支援するために必要な看護相談対応力の向上を図る」をテーマに、講演およびグループワークを実施しました。参加者は、会場とオンラインを合わせて43名でした。

本研修はまちの保健室委員が運営し、司会は数原法子委員長が担当しました。開会あいさつでは、本会大迫しのぶ専務理事より、日頃より地域で活動する参加者にとって、本研修が実践に役立つ有意義な機会となることへの期待が述べられました。

最初の講演では、本会松下清美専務理事より、「まちの保健室」の歴史と今後の課題について説明がありました。「まちの保健室」は、阪神・淡路大震災後の被災者支援を原点として平成13年に開始され、今年で25年目を迎える事業です。被災後に深刻化した住民の孤立や心身の健康課題

に対応するため、看護職に気軽に相談できる場、地域の居場所として展開されてきました。行政と連携した相談対応や見守り活動を通じて全県的な事業へ発展し、これらの経験は各地の災害支援にも活かされています。コロナ禍による一時的な停滞はあったものの、現在は活動が回復し、高齢者支援や子育て世



代への支援などを通じて地域のつながりづくりに寄与しています。

今後は、活動拠点やボランティアの減少、南海トラフ地震を見据えた防災・減災への対応、自助・共助の力を高める取り組みの重要性が示され、特に、災害支援ナースや行政と連携し、平時から防災意識を高めていくことが課題とされました。

続いて、神戸大学大学院保健学研究科 看護学領域 教授 宮脇郁子氏より、「看護職ならではの相談対応力」について講演が行われました。阪神・淡路大震災の経験を踏まえ、相談対応において最も重要なのは、相談者と医療者との「関心のズレ」に気づくことであると述べられました。相談者の関心は病気そのものではなく、「生活」や「生きる基盤」に向いていることが多いと示されました。相談対応力を高めるためには、相手の「気がかり」を捉えることが不可欠であり、「今、一番ご心配なことは何ですか」と問いかける姿勢が重要であるとされました。また、医療者側の思い込みや都合ではなく、相手に寄り添う態度の大切さが強調されました。さらに、看護の実践知を高めるためには、リフレクション(省察)が欠かせないとし、実践中の振り返りや対応の修正、実践後の意味づけ、経験を言語化して他者と共有することの重要性が説明されました。慢性疾患を有する人への相談対応では、①生活習慣を整える支援、②その人らしい生活の維持、③病気による不安や怒りなど感情への支援、の3つの視点が重要であり、行動変容を促す際には自己効力感を高める関わりが必要であると締めくくられました。

後半では、「看護職と対象者の『気がかり』～難渋した相談経験～」をテーマにグループワークを行いました。服薬を拒否する事例への対応、住民が集まりやすい場所での相談会の実施、専門外の相談があった際の地域の専門機関との連携の重要性、相談対応における自身の姿勢や振り返り、災害支援ナースとの連携の必要性などについて、各グループで活発な意見交換が行われました。グループワーク後に講師から、相談対応において最も大切なのは知識や技術だけでなく、相手の関心や気がかりに寄り添う態度であること、信頼関係を築きながら共に考え、適切につなぐ視点を持つこと、そして自身の経験を振り返り、実践知として積み重ねていくことの重要性について助言がありました。



最後に、松下専務理事より、「まちの保健室」は病院とは異なり、生活の場で看護職が関わることで、対象者が自らの人生や健康について自己決定できるよう支援する重要な役割を担っていること、25年間継続してきた活動そのものが地域に根付いている証であることが述べられました。また、今後は個別の健康相談に加え、減災の視点を取り入れ、災害支援ナースや行政と連携しながら、安心して暮らせる地域づくりを進めていく必要があるとし、研修会は閉会しました。

今回の研修で得た学びを、まちの保健室推進委員やボランティアと共有し、地域住民への還元につなげるとともに、災害時にも迅速かつ的確に対応できるよう、地域特性への理解を深めていきたいと考えます。

(報告者:まちの保健室委員会委員 佐用町役場 木村昌子)

〈災害支援ナース研修・交流会〉



災害支援ナース研修・交流会に 参加しました

令和7年12月16日、「災害支援ナース研修・交流会」が開催され、まちの保健室委員も参加しました。今回の研修は「平時から情報共有できるネットワークづくり」をテーマに、災害支援ナース、まちの減災ナース指導者、そしてまちの保健室委員の連携強化を目的としています。

講義では「まちの減災ナース活動の実際」について学び、続くグループワークでは、災害支援ナースとまちの減災ナース、「まちの保健室」が平常時から地域住民にどのように働きかけることができるか意見交換を行いました。その中で、避難所体験や減災教育の場を増やすためには、私たちの活動を地域や学校関係者に広く知ってもらうことが重要であること、さらにそのための効果的な広報方法や、地域理解を深めるために「まちの保健室」活動や地域イベントへの積極的な参加が必要であることなど、活発な議論が交わされました。

また、兵庫医科大学の神崎初美先生からは、「災害支援ナースの活動はまちの保健室活動そのものであり、ぜひまちの保健室ボランティア登録をして活動してください」との呼びかけがありました。

災害支援ナース、まちの減災ナース指導者、そして「まちの保健室」の活動は、阪神淡路大震災での被災者支援を原点としています。今後、三者が一体となり、活動の幅をさらに広げていけることを期待しています。





「まちの保健室」事業 実績報告

「まちの保健室」拠点開設状況



■ 阪神南支部 窓口：明和病院 末武 千香			
No.	地域	拠点名	内 訳
1	尼崎市	園田学園キャンパス	健康相談
2	西宮市	西宮市大学交流センター	健康相談
3	芦屋市	カンガルークラブ	子育て支援
4	芦屋市	ひだまりクラブ	健康相談

■ 阪神北支部 窓口：川西市立総合医療センター 南 幸栄			
No.	地域	拠点名	内 訳
1	伊丹市	いきいき健康教室	健康相談
2	伊丹市	共同利用施設 鴻池センター	健康相談
3	伊丹市	県営南町高層住宅	健康相談
4	宝塚市	宝塚第一病院	健康相談
5	宝塚市	市営安倉南住宅	健康相談
6	宝塚市	市営安倉西住宅	健康相談
7	宝塚市	市営鳥島住宅	健康相談
8	川西市	大和地区	健康相談
9	丹波市	希望の家・きらめきワーク	健康相談
10	丹波市	丹波の森ショッピングタウン(コモレ)	健康相談
11	丹波市	丹波ゆめタウン	健康相談

■ 神戸東部支部 窓口：神戸赤十字病院 坂根 千絵			
No.	地域	拠点名	内 訳
1	東灘区	神戸市立東灘図書館	健康相談/子育て支援
2	中央区	コミュニティプラザ	健康相談
3	中央区	脇の浜地域福祉センター	健康相談

■ 神戸中部支部 窓口：神戸百年記念病院 白井 由紀			
No.	地域	拠点名	内 訳
1	兵庫区	三菱神戸病院	健康相談
2	北区	済生会兵庫県病院	健康相談/健康講座
3	北区	JCHO神戸中央病院	健康相談
4	中央区	神大病院 ※令和7年5月31日閉設	防煙教室

■ 神戸西部支部 窓口：神戸市立医療センター西市民病院 高橋 千香			
No.	地域	拠点名	内 訳
1	垂水区	まいご会館	健康相談
2	垂水区	狩口台住宅	健康相談
3	西区	井吹台セリオホール	子育て支援
4	西区	神戸市看護大学「健康支援」	健康相談
5	西区	神戸市看護大学「子育て支援」	子育て支援
6	西区	神戸市看護大学「こころと身体の看護相談」	こころの相談
7	西区	神戸市看護大学「もの忘れ看護相談」	もの忘れ相談

■ 東播支部 窓口：加古川市民病院機構 花岡 澄代			
No.	地域	拠点名	内 訳
1	明石市	兵庫県立大学 ボランティア看護師による健康相談	健康相談
2	明石市	兵庫県立大学 生活習慣病と足の看護相談	健康相談
3	明石市	県営明石清水第2高層住宅	健康相談
4	明石市	ふれあいプラザ明石西	健康相談
5	加古川市	加古川駅南子育てプラザ	子育て支援
6	加古川市	加古川市立総合体育館	健康相談
7	洲本市	洲本街角サロン イオン洲本店	健康相談
8	洲本市	まちの子育て広場	子育て支援
9	淡路市	ほくたん	健康相談

■ 北播支部 窓口：三木山陽病院 山本 恵子			
No.	地域	拠点名	内 訳
1	三木市	道の駅みき	健康相談
2	小野市	白雲谷温泉 ゆびか	健康相談
3	加西市	アスティアかさい	健康相談
4	加東市	滝野温泉ぽかぽ	健康相談
5	多可町	あすみる多可	健康相談
6	西脇市	みらいえ西脇	健康相談

■ 西播支部		窓口：赤穂市民病院 高木 睦子	
No.	地域	拠点名	内 訳
1	姫路市	コープ姫路田寺店	健康相談/物忘れ相談
2	姫路市	こどもの館	子育て支援/女性の健康相談
3	姫路市	城内図書館	健康相談/物忘れ相談
4	姫路市	姫路獨協大学 看護学部	健康相談/子育て支援/介護相談
5	姫路市	姫路大学看護学部「ひめみちくんの健康相談」	健康相談/子育て支援/介護相談
6	福崎町	ライフコーポレーション福崎店	健康相談
7	相生市	コープデイズ相生	健康相談
8	たつの市	新宮図書館 ※令和7年4月30日 閉設	健康相談
9	たつの市	たつの市はつらつセンター入浴施設「はつらつの湯」	健康相談
10	赤穂市	赤穂市民病院	健康相談/介護相談
11	赤穂市	赤穂中央病院	健康相談
12	宍粟市	イオン山崎店	健康相談
13	佐用町	マックスバリュ佐用店	健康相談/子育て支援/介護相談

■ 但馬支部		窓口：豊岡病院 関 滝江	
No.	地域	拠点名	内 訳
1	豊岡市	サンスト館	健康相談/子育て支援
2	豊岡市	豊岡郵便局	健康相談
3	豊岡市	長寿園	健康相談
4	養父市	ショッピングタウンペア	健康相談
5	新温泉町	たんぼぼの会	健康相談

■ 兵庫県看護協会		窓口：勝田 玲子	
No.	地域	拠点名	内 訳
1	本会	兵庫県看護協会	健康相談/子育て支援

拠点数									
阪神南	阪神北	神戸東部	神戸中部	神戸西部	東播	北播	西播	但馬	本会
4	11	3	4	7	9	6	13	5	1

「まちの保健室」拠点総数

63 拠点



「まちの保健室」拠点実績



支 部 名	拠 点 数	拠 点 名	内 容										来 所 人 数						来 所 人 数 (うちリピーター)						相 談・指 導 件 数	体 験 及 び 啓 発																
			回 数	健 康 相 談	子 育 て 支 援	介 護 相 談	講 座	認 知 症 対 応 型 体 験	減 災・防 災 啓 発	ボ ラン ティ ア 数	協 賛 者 数	75 才 以 上	65 才 以 上	65 才 未 満	子 育 て 相 談 者	児 童	学 生	一 般	総 数	75 才 以 上	65 才 以 上	65 才 未 満	子 育 て 相 談 者	児 童			学 生	一 般	総 数													
																														測 定 件 数	測 定 件 数	測 定 件 数	測 定 件 数									
阪 神 南	1	園田学園キャンパス	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	24	17	5	0	0	0	0	0	0	46	20	11	3	0	0	0	0	0	34	224	254	0	
	2	西宮市大学 交流センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	カンガルークラブ	11	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	181	0	0	0	0	11	1	0	0	0	181	0	0	0	181	0	0	0	0	0	0	0	0	118	0	60	0		
	4	ひだまりクラブ	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	11	3	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56	5	0	
		阪神南合計	19	8	11	0	0	0	0	0	0	0	0	21	1	35	20	5	181	0	0	0	0	0	0	0	0	241	20	11	3	118	0	0	0	152	280	319	0			
阪 神 北	1	いきいき健康教室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	2	共同利用施設 鴻池センター	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27	0	57	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	57	55	0	0	0	0	0	0	0	55	249	59	0		
	3	県営南町高層住宅	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	13	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	13	1	0	0	0	0	0	14	65	20	0				
	4	宝塚第一病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	5	市営安倉南住宅	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64	61	0	0	0	0	0	0	61	323	121	0				
	6	市営安倉西住宅	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	55	54	0	0	0	0	0	0	54	245	79	0				
	7	市営鳥島住宅	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	0	82	2	8	0	0	0	0	0	0	0	92	75	2	8	0	0	0	0	85	460	207	0					
	8	大和地区	4	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0	42	4	55	54	0	0	0	0	0	0	0	0	109	37	27	0	0	0	0	0	64	295	57	0					
	9	希望の家・ きらめきワーク	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	5	10	0	0	0	0	0	0	0	15	0	2	7	0	0	0	0	9	38	24	0					
	10	丹波の森ショッピング タウン(コモール)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	90	0					
	11	丹波ゆめタウン	4	4	0	0	0	0	0	1	0	20	0	17	50	81	0	0	0	0	0	0	0	0	0	148	0	0	0	0	0	0	0	0	0	310	150	0				
	阪神北合計	42	42	0	0	4	0	0	1	0	147	4	343	112	99	0	0	0	0	0	0	0	0	0	554	295	32	15	0	0	0	0	342	1985	807	0						
神 戸 東 部	1	神戸市立東灘図書館	6	6	1	2	1	1	0	0	0	29	2	26	9	11	1	0	0	0	0	0	0	0	47	18	4	0	0	0	0	0	22	48	54	0						
	2	コミュニティプラザ	6	5	0	0	0	0	0	0	20	0	31	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38	30	7	0	0	0	0	0	37	61	76	0						
	3	脇の浜 地域福祉センター	6	6	0	0	0	0	0	0	17	1	81	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	83	54	0	0	0	0	0	0	54	94	94	0						
		神戸東部合計	18	17	1	2	1	1	0	0	66	3	138	18	11	1	0	0	0	0	0	0	0	0	168	102	11	0	0	0	0	113	203	224	0							
神 戸 中 部	1	神大病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
	2	三菱神戸病院	1	1	0	0	1	0	0	0	1	5	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0	30	30	17	0					
	3	済生会兵庫県病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	4	JCHO神戸中央病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
		神戸中部合計	1	1	0	0	1	0	0	0	1	5	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0	30	30	17	0					



支部名	拠点数	拠 点 名	内 容								ボランティア数	来所人数							来所人数(うちリピーター)							測定件数	相談・指導件数	体験及び啓発											
			回数	健康相談	子育て支援	介護相談	講座	認知症対応型	体験	減災・防災		啓発	75才以上	65才以上	65才未満	子育て相談者	児童	学生	一般	総数	75才以上	65才以上	65才未満	子育て相談者	児童				学生	一般	総数								
																																協賛者数	協賛者数	協賛者数	協賛者数	協賛者数	協賛者数	協賛者数	協賛者数
神戸西部	1	まいご会館	3	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	23	4	1	10	0	0	0	0	0	0	28	14	0	0	0	0	0	0	0	14	19	41	0
	2	狩口台住宅	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	90	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	98	51	0	0	0	0	0	0	51	380	76	0
	3	井吹台セリオホール	7	10	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	6	0	0	0	09	0	0	0	0	0	0	0	109	0	0	0	18	0	0	0	18	87	44	0
	4	神戸市看護大学「健康支援」	10	7	0	1	8	0	3	1	1	22	53	144	75	51	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	271	64	37	15	0	0	0	0	116	775	451	174
	5	神戸市看護大学「子育て支援」	4	0	4	0	0	0	0	0	0	13	1	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	4	0	0	0	4	7	9	0
	6	神戸市看護大学「こころと身体の看護相談」	9	9	0	0	0	0	0	0	0	20	8	11	17	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39	10	13	8	0	0	0	0	31	0	33	0
	7	神戸市看護大学もの忘れ看護相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		神戸西部合計	37	23	11	2	8	0	3	1	1	117	68	268	103	64	119	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	555	139	50	23	22	0	0	0	234	1268	654	174
東播	1	兵庫県立大学 ボランティア看護師による健康相談	10	10	0	0	0	0	0	0	39	0	43	28	31	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	107	33	24	15	0	0	0	0	72	591	220	0	
	2	兵庫県立大学 生活習慣病と足の看護相談	5	5	0	0	0	0	0	0	2	13	13	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	12	2	0	0	0	0	0	14	96	64	0	
	3	県営明石清水第2高層住宅	5	5	0	0	0	0	0	0	20	2	51	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	42	5	4	0	0	0	0	51	135	108	0	
	4	ふれあいプラザ 明石西	5	5	0	0	0	0	0	1	0	20	4	52	49	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	116	18	22	4	0	0	0	0	44	312	183	26
	5	加古川駅南子育てプラザ	4	0	4	0	0	0	0	0	23	3	0	0	0	209	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	209	0	0	0	112	0	0	0	112	334	32	0
	6	加古川市立総合体育館	3	3	0	0	0	0	0	1	0	11	2	2	10	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	2	8	12	0	0	0	0	22	70	26	7
	7	洲本街角サロンイオン洲本店	4	4	0	0	0	0	0	0	8	4	31	11	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46	19	7	2	0	0	0	0	28	103	37	0
	8	まちの子育て広場	4	0	4	0	0	0	0	0	7	8	0	0	0	67	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	67	0	0	0	29	0	0	0	29	0	5	0
	9	ほくたん	4	4	0	0	0	0	0	0	7	5	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	17	0	0	0	0	0	0	17	29	18	0
	東播合計	44	36	8	0	0	0	0	2	0	137	41	210	106	66	276	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	663	143	68	37	141	0	0	0	389	1670	693	33	
北播	1	道の駅みき	11	11	0	0	0	0	0	0	32	0	39	23	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	78	11	5	8	0	0	0	0	24	129	67	0
	2	白雲谷温泉 ゆびか	12	12	0	0	0	0	0	0	57	0	57	49	73	0	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	187	24	8	9	0	0	0	0	41	269	125	0
	3	アステシアかさい	5	5	3	0	0	0	0	0	20	0	10	8	24	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	49	4	1	10	0	0	0	0	15	64	56	0
	4	滝野温泉ぼかぼ	5	5	0	0	0	0	0	0	10	10	14	15	43	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	74	3	2	6	0	0	0	0	11	128	44	0
	5	あすみる多可	6	6	0	0	0	0	0	0	16	1	10	4	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	1	0	0	0	0	0	0	1	28	28	0
	6	みらいえ西脇	11	11	1	1	0	1	0	0	32	0	32	26	34	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	95	1	2	2	0	0	0	0	5	110	108	0
		北播合計	50	50	4	1	0	1	0	0	167	11	162	125	205	0	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	512	44	18	35	0	0	0	0	97	728	428	0

支部名	拠点数	拠点名	内 容								ボランティア数	来所人数							来所人数(うちリピーター)							測定件数	相談・指導件数	体験及び啓発								
			回数	健康相談	子育て支援	介護相談	講座	認知症対応型	体験	減災・防災		啓発	75才以上	65才以上	65才未満	子育て相談者	児童	学生	一般	総数	75才以上	65才以上	65才未満	子育て相談者	児童				学生	一般	総数					
																																協賛者数	75才以上	65才以上	65才未満	子育て相談者
西播	1	コープ姫路田寺店	5	5	0	0	0	0	0	0	0	9	0	7	5	3	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	24	0
	2	こどもの館	11	5	11	0	0	0	0	0	1	20	0	0	7	48	140	74	3	0	272	0	2	2	0	1	1	0	6	232	63	0				
	3	城内図書館	4	4	0	1	0	3	0	0	0	8	0	13	7	4	0	0	0	0	24	3	1	1	0	0	0	0	5	19	53	0				
	4	姫路獨協大学看護学部	4	4	0	0	3	0	3	0	2	4	38	44	13	16	0	1	0	0	74	31	6	7	0	0	0	0	44	477	136	241				
	5	姫路大学看護学部「ひめちくんの健康相談」	4	3	0	0	0	0	4	0	0	6	27	0	22	115	0	0	28	0	165	0	0	0	0	0	0	0	0	820	259	0				
	6	ライフコーポレーション福崎店	4	4	0	1	0	0	0	0	0	8	0	5	9	14	0	1	0	0	29	1	1	0	0	0	0	0	2	53	44	0				
	7	コープデイズ相生	4	4	1	0	0	0	0	1	0	9	0	14	14	1	0	0	0	0	29	1	1	0	0	0	0	0	2	39	41	10				
	8	たつの市はつらつセンター入浴施設「はつらつの湯」	8	8	0	0	0	0	0	0	0	19	0	8	16	19	0	2	0	0	75	16	3	7	0	0	0	0	26	160	130	0				
	9	新宮図書館	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	2	12	8	0				
	10	赤穂市民病院	4	4	0	1	0	0	0	0	0	8	0	12	8	2	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	6	23	0				
	11	赤穂中央病院	12	12	1	3	0	2	0	0	0	24	0	61	34	24	0	0	0	0	119	6	0	0	0	0	0	0	6	38	134	0				
	12	イオン山崎店	4	4	2	1	0	1	0	0	0	20	0	40	34	50	0	3	8	0	135	0	0	0	0	0	0	0	0	183	198	0				
	13	マックスパリュ佐用店	4	4	0	0	0	0	0	0	0	7	1	7	10	8	0	5	7	0	37	0	0	0	0	0	0	0	0	19	30	0				
	西播合計	69	62	15	7	3	6	7	1	3	144	66	243	179	304	140	86	46	0	998	60	14	17	0	1	1	0	93	2080	1143	251					
但馬	1	サンスト館	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	2	豊岡郵便局	4	4	0	0	0	0	0	0	8	0	6	4	7	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	25	0				
	3	長寿園	4	4	0	0	0	0	0	0	8	0	21	1	1	0	0	0	0	23	2	0	0	0	0	0	0	2	23	35	0					
	4	ショッピングタウンペア	4	4	0	0	0	0	0	0	8	0	13	3	2	0	0	0	0	18	2	1	0	0	0	0	0	3	26	18	0					
	5	たんぼぼの会	4	4	0	0	0	0	0	0	8	0	9	25	4	0	0	0	0	38	4	0	0	0	0	0	0	4	42	44	0					
	但馬合計	17	17	0	0	0	0	0	0	34	0	49	33	14	0	0	0	0	96	8	1	0	0	0	0	0	9	115	122	0						
看護協会	1	看護協会	42	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		協会合計	42	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	総合計	339	298	50	12	17	8	10	5	4	834	199	1478	696	768	717	98	60	0	3817	811	205	130	281	1	1	0	1429	8359	4407	458					

「まちの保健室」出前隊実績

支 部	阪神南	阪神北	神戸東部	神戸中部	神戸西部	東 播	北 播	西 播	但 馬	総 数
出前隊件数(件)	32	7	1	1	11	15	4	9	18	98
延べ活動ボランティア数(名)	101	43	3	6	13	47	17	41	54	325
来所者数(名)	757	205	34	122	76	486	222	990	310	3202

兵庫県看護協会「まちの保健室」電話相談16件



7 まちの保健室ボランティア表彰



阪神南支部

辻 早智子

西宮市立中央病院

阪神南支部のまちの保健室委員として5年間活動した。そのうち令和2年から令和5年までは委員長として活動し、コロナ禍においても感染対策を講じながら「まちの保健室」活動を継続するとともに、出前隊活動のコーディネートをを行い、自らも参加するなど、積極的に活動にご尽力した。



阪神北支部

花谷 愛子

宝塚市立病院

平成13年からまちの保健室ボランティア登録を行い、社会福祉協議会および保健師の協力のもと、震災復興住宅を中心に「まちの保健室」を開設した。拠点活動やキャラバン隊としての訪問活動を行い、現在に至るまで拠点活動を継続してきた。また、平成26年2月には、東日本大震災後の3県（宮城県、岩手県、福島県）と兵庫県看護協会との交流会に出席し、「まちの保健室」活動の報告を行った。



神戸東部支部

寺澤 美展

兵庫県立こども病院

令和4年からまちの保健室ボランティア登録を行い、子育て相談を行っている拠点「東灘図書館」や出前隊などで、ボランティア活動にご尽力した。また、職場内でボランティア参加の呼びかけを積極的に行い、ともにボランティア活動に取り組む仲間が増えた。



神戸中部支部

東 慶玲

社会医療法人榮昌会
吉田病院

自施設が「まちの保健室」拠点病院として活動していた際には、地域の福祉センターや寺院などにおいて活動にご尽力いただき、健康相談を中心としたボランティア活動を通じて、地域住民の健康意識の向上や健康維持に貢献された。



神戸西部支部

丸尾 智実

神戸市看護大学

平成30年にまちの保健室ボランティア登録後、拠点活動で継続的に活動してきた。令和4年には、神戸西部支部まちの保健室委員長として、新規依頼のあった出前隊や看護の日のイベントへの参加等を積極的におこない、コロナ禍の影響で十分な活動ができない中で活動の再開につながる取り組みに貢献した。現在も神戸市看護大学での拠点活動の継続にあたる調整と実施、出前隊等での活動を継続しており、今後も地域住民の健康に寄与することが期待できる。



東播支部

奥井 陽子

医療法人仁恵会
石井病院

コロナ禍が明け、「まちの保健室」活動再開後、東播支部でのまちの保健室推進委員として3年半活動を継続している。活動を通じて培われた知識や実践経験を新しい委員にも丁寧に共有し、委員会の円滑な運営を可能にするために支援を実践している。令和4年には、委員長として、委員全体を取りまとめ活動の中心的存在であった。拠点活動に加え、出前隊活動にも積極的に参加し、地域住民の健康維持・増進に向けた指導を行うなど、地域社会における健康支援の促進に貢献された。



北播支部

松本 淳子

松原メイフラワー病院

コロナ禍に休止していた「まちの保健室」拠点活動および出前隊活動の再開に向け、3年間にわたり委員を担っていただいた。これまでの経験を活かし、北播支部まちの保健室委員会活動に積極的にご尽力いただいた。



西播支部

井上 幸代

龍野健康福祉事務所
地域保健課

兵庫県内の各保健所において保健師として従事する傍ら、平成17年よりボランティア登録を行い、以後、継続的に活動を行ってきた。地域に出向き、専門知識を活かした健康相談や子育て支援などに関わりたいという強い思いを持ち、勤務地の異動に伴う拠点活動場所の変更や、定年退職後の再雇用となった現在においても、約20年間にわたり活動を継続してきた。



但馬支部

田中 久美

公立八鹿病院

平成20年頃からまちの保健室ボランティア登録を行い、臨床経験を活かして現在も積極的に「まちの保健室」活動に取り組んできた。平成30年から2年間は、兵庫県看護協会および但馬支部まちの保健室委員として但馬支部の活動全体を把握し、拠点運営や出前隊の効果的な活動について県委員会の場で協議を行い、その推進に寄与した。また、兵庫県看護協会まちの保健室15周年記念事業においては、検討委員会の一員として企画および準備・運営に携わり、その功績は大きかった。



8

委員・コーディネーター紹介

●「まちの保健室」委員会●

支 部	氏 名	所 属
阪神南	福田 和美	尼崎新都心病院
阪神北	上山 美紀	協立訪問看護ステーション
神戸東部	数原 法子	甲南医療センター
神戸中部	山田 愛 (コーディネーターと兼務)	三菱神戸病院
神戸西部	藤井 秀子	神戸医療センター
東 播	小林 さおり	東浦平成病院
北 播	小西 みゆき	加西市福祉部福祉企画課
西 播	児嶋 朱美	姫路市西保健センター
但 馬	藤原 真希	豊岡病院日高クリニック
	木村 昌子	佐用町役場 健康福祉課
	西原 沙織	兵庫県保健医療部健康増進課
	大迫 しのぶ	兵庫県看護協会
	勝田 玲子	兵庫県看護協会

●まちの保健室コーディネーター●

支 部	氏 名	所 属
阪神南	柴本 高宏	めいわりハビリテーション病院
阪神北	榊村 佳代	市立伊丹病院
阪神北	宮定 幸子	兵庫医科大学ささやま医療センター
阪神北	鎌田 洋子	個人
阪神北	青山 りか	医療法人協和会協立記念病院
神戸東部	梁 京玉	兵庫県立こども病院
神戸東部	濱田 菜穂子	神戸赤十字病院
神戸東部	橋本 真理子	神戸市立医療センター中央市民病院
神戸中部	山田 愛 (委員と兼務)	三菱神戸病院
神戸西部	川辺 由美	神戸市立医療センター西市民病院
東 播	平松 由美子	個人
東 播	岡本 由香	個人
北 播	中田 佳代	西脇市立西脇病院
西 播	内藤 里美	姫路聖マリア病院
西 播	清瀬 由美子	姫路聖マリア病院
但 馬	原田 玻璃美	個人
但 馬	西垣 悦代	個人



私たちは、阪神・淡路大震災やコロナ禍といった災害に加え、人口減少や高齢化により地域コミュニティの姿が大きく変化するなかで、時代の要請に応じて「まちの保健室」の役割を発展させてきました。近年は、活動拠点の見直しを迫られるなど、運営環境が一層複雑化しており、地域の実情を踏まえながら、柔軟で持続可能な活動体制を構築することが重要な課題となっています。

こうした状況を踏まえ、今年度より「まちの保健室」は、従来の計測機器を活用した支援から、住民の皆さまに寄り添う看護相談を主軸とする活動へと再構築しました。大きな転換点を迎えるなかにあっても、ボランティアの皆さまが専門性と柔軟性を十分に発揮し、地域住民の相談に丁寧に対応してくださったおかげで、「まちの保健室」は地域の皆さまに安心して利用していただける場として継続することができています。

また、ボランティアの皆さまに支えていただく活動は、地域の健康づくりに貢献するだけでなく、皆さまご自身にとっても、世代や背景を越えた交流を通して学びや成長、達成感を得ていただける貴重な機会となっています。これからも「まちの保健室」は、地域の状況に応じながら、住民の皆さまが相談しやすい環境を整えるとともに、活動を通じてボランティアの皆さまがさらなる成長と充実を感じられる場となるよう取り組んでまいります。

最後になりましたが、「まちの保健室」のボランティアとしてご参加いただき、大きな変化のあった今年度の活動を力強く支えてくださった皆さま、そして令和7年度「まちの保健室」事業報告書の作成にご協力いただいた皆さまに、心より感謝申し上げます。

令和7年度「まちの保健室」事業報告書

.....

令和8年5月発行

発行 公益社団法人兵庫県看護協会

〒650-0011 兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目6番24号

TEL (078) 341-0255(直) FAX (078) 361-6652